ソロハンターの生態4
THE FOURTH PART
ADULT ONLY
YOKOHAMA JUNKY

ソロハンターの生態 4
The fourth part

†

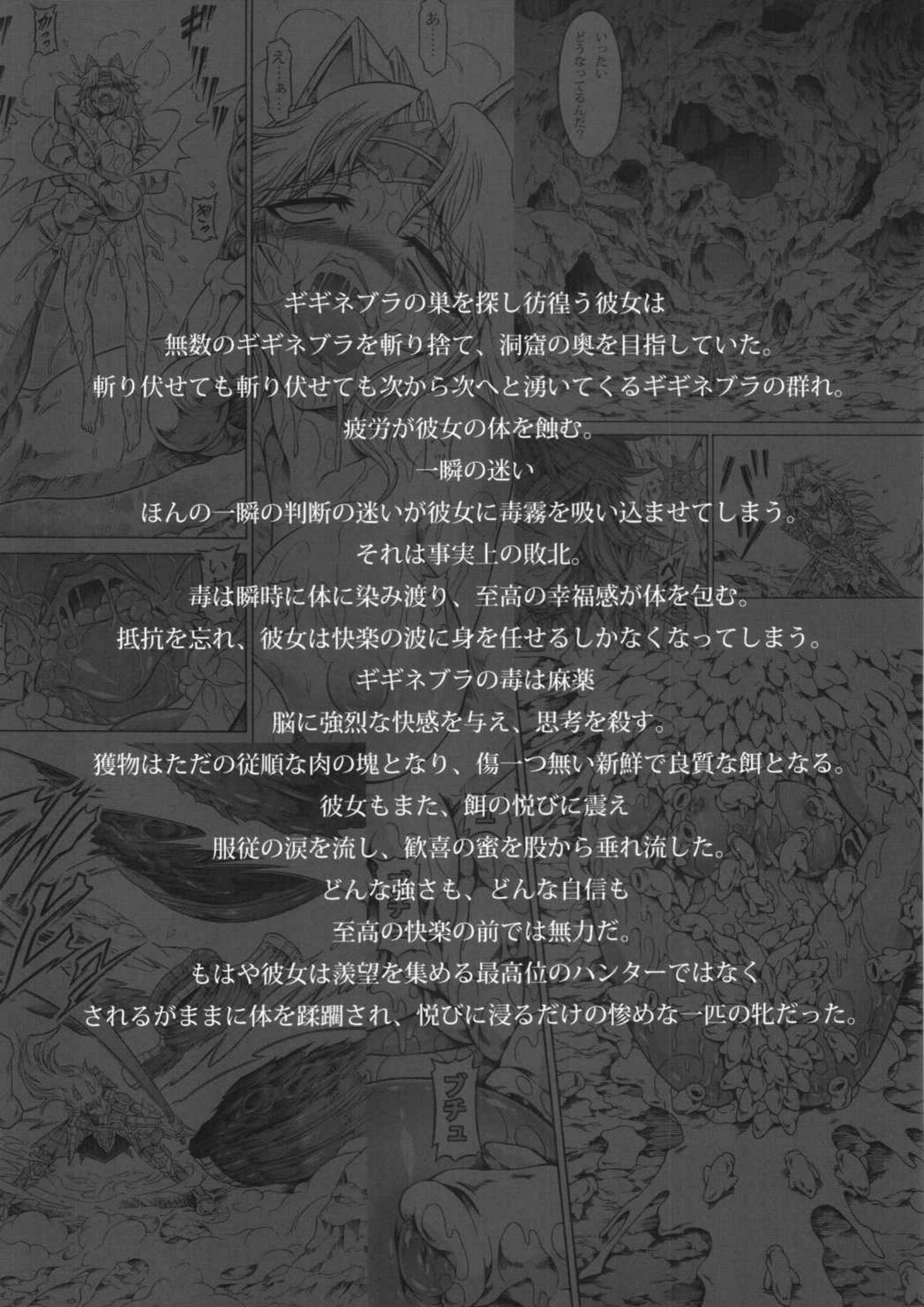
ギギネ○ラの巣に捕らわれた女ハンターは
昼夜問わず与えられる肉の悦びに逆らえず、官能に身を任せていた
快感で意識を失い、快感で意識が戻る
快楽以外何も存在しない彼女の日常
しかし、今度の目覚めは違った
周囲には絶頂に狂う女達も、官能を呼び起こす毒液の匂いも無い
正気を保てた彼女は地上への脱出を試みる
そんな彼女の前に一匹のギギネ○ラが現れる
見たことの無い不気味な容姿のその個体は、成長途中のギギネ○ラだった
一度捕らえた獲物をわざわざ逃がす真意が分からず、戸惑いながらも
彼女は眼前の敵と対峙する

†

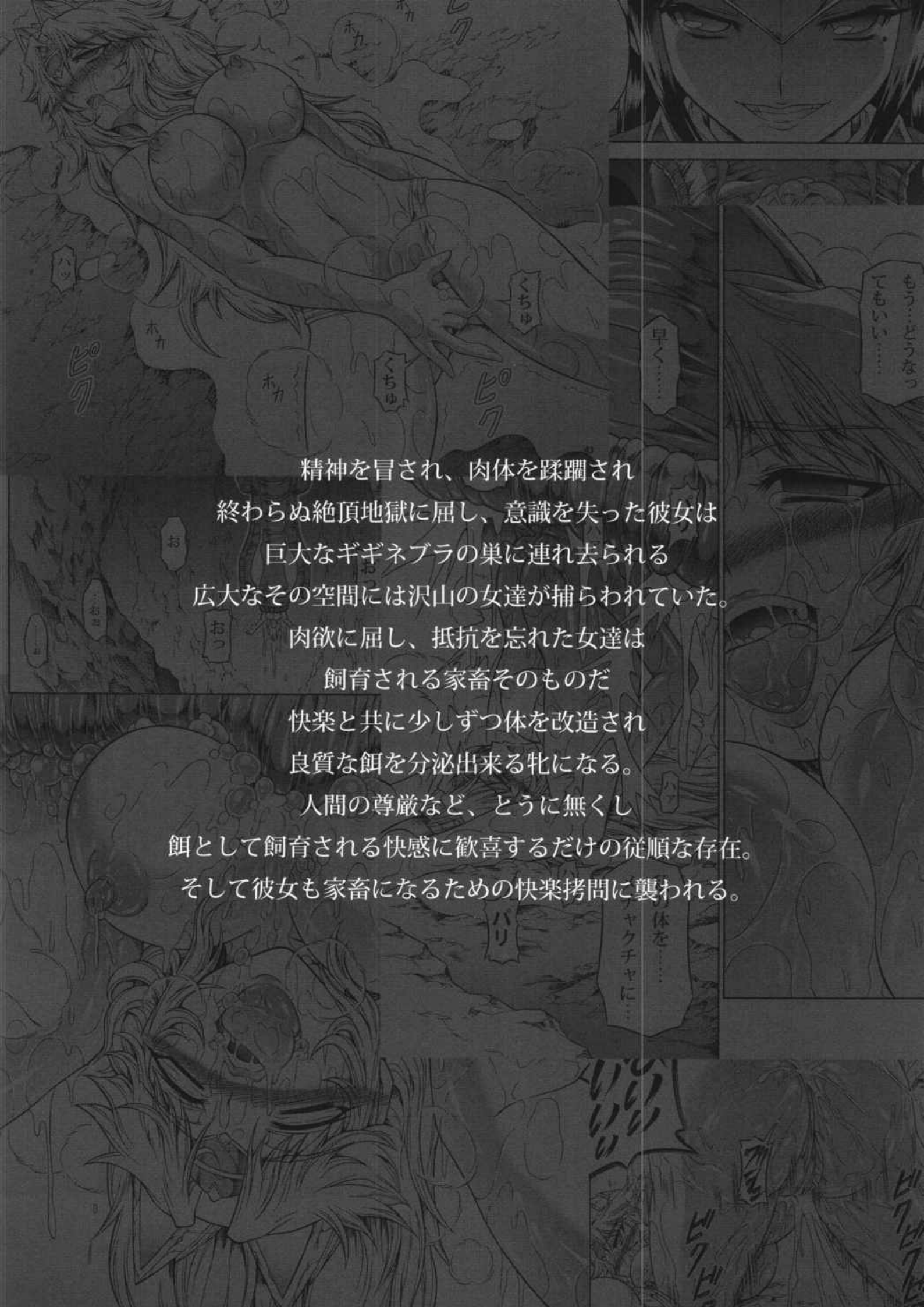
※本書は18禁です、18歳未満の閲覧は禁止です。

Yokohama Junky

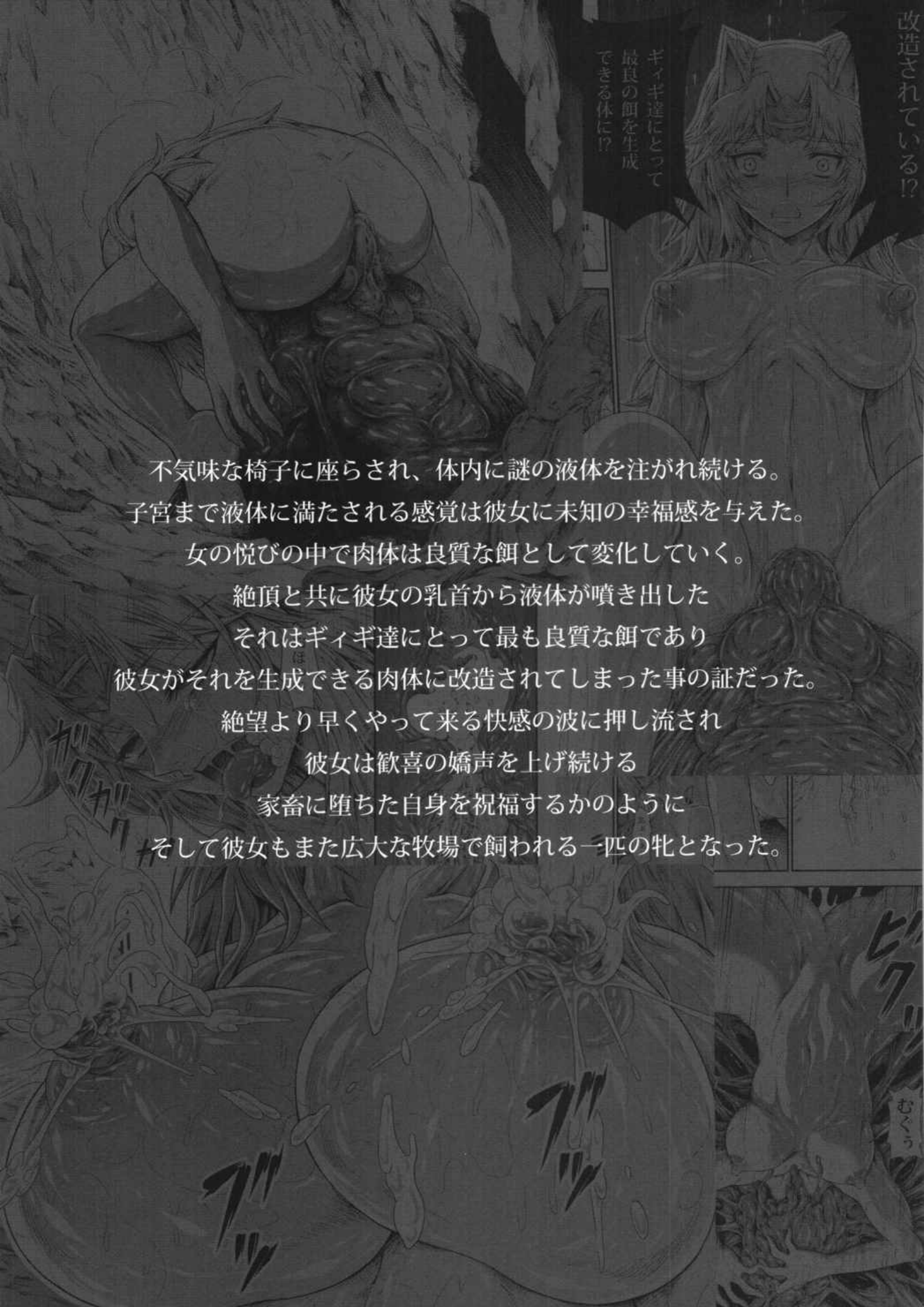
彼女は有能だった。
彼女に与えられたのは『調査任務』
辺境の地で異常な進化を遂げたギギネブラの生態を
観察し、分析し、報告する。
彼女にはあくびが出るほど退屈な任務だった。
若くしてギルドの最高位ハンターに名を連ねた彼女は
周囲を見下す傲慢さと、実力に裏付けされた自信を持っていた。
『退屈な任務に期待以上の成果を』
彼女は貪欲な野心家だった。
だが、まだ彼女は知らない
ギギネブラ達の危険な習性、そして敗北したハンター達の末路を。



ギギネブラの巣を探し彷徨う彼女は
無数のギギネブラを斬り捨て、洞窟の奥を目指していた。
斬り伏せても斬り伏せても次から次へと湧いてくるギギネブラの群れ。
疲労が彼女の体を蝕む。
一瞬の迷い
ほんの一瞬の判断の迷いが彼女に毒霧を吸い込ませてしまう。
それは事実上の敗北。
毒は瞬時に体に染み渡り、至高の幸福感が体を包む。
抵抗を忘れ、彼女は快楽の波に身を任せるしかなくなってしまう。
ギギネブラの毒は麻薬
脳に強烈な快感を与え、思考を殺す。
獲物はただの従順な肉の塊となり、傷一つ無い新鮮で良質な餌となる。
彼女もまた、餌の悦びに震え
服従の涙を流し、歓喜の蜜を股から垂れ流した。
どんな強さも、どんな自信も
至高の快楽の前では無力だ。
もはや彼女は羨望を集める最高位のハンターではなく
されるがままに体を蹂躙され、悦びに浸るだけの惨めな一匹の牝だった。



精神を冒され、肉体を蹂躙され
終わらぬ絶頂地獄に屈し、意識を失った彼女は
巨大なギギネブラの巣に連れ去られる
広大なその空間には沢山の女達が捕らわれていた。
肉欲に屈し、抵抗を忘れた女達は
飼育される家畜そのものだ
快楽と共に少しずつ体を改造され
良質な餌を分泌出来る牝になる。
人間の尊厳など、とうに無くし
餌として飼育される快感に歓喜するだけの従順な存在。
そして彼女も家畜になるための快楽拷問に襲われる。



不気味な椅子に座らされ、体内に謎の液体を注がれ続ける。
子宮まで液体に満たされる感覚は彼女に未知の幸福感を与えた。
女の悦びの中で肉体は良質な餌として変化していく。
絶頂と共に彼女の乳首から液体が噴き出した
それはギィギ達にとって最も良質な餌であり
彼女がそれを生成できる肉体に改造されてしまった事の証だった。
絶望より早くやって来る快感の波に押し流され
彼女は歓喜の嬌声を上げ続ける
家畜に堕ちた自身を祝福するかのように
そして彼女もまた広大な牧場で飼われる一匹の牝となった。

そして_____

ヌチ
ヌチ
ヌチ

ギュ
ギュ
ギュ
んはっ
モワ
モワ
モワ
んはっ
んはっ

強烈な女の匂いが
意識を陶酔させる

ヘッ

ネト

夢見心地のまま
体は従順な肉欲の
奴隷にされてしまう

ヘッ

ネト

原因は体液だ
何度も狂わされた
あの行為によって
私達の体液はギギネブラの
毒液に近い性質(モノ)になっている

チュ

チュ

チュ

汗も涙も

フッ

ビクッ

フッ

フッ

ヌト

フッ

ヌト

フッ

ヌト

フッ

ビクッ

愛液も
尿でさえも

フッ

ヌト

フッ

フッ

脳を溶かし官能で
満たす至高の媚薬だ

ヌト

ビクッ
ビクッ
だが汗や愛液は女に天国を彷徨わせるだけの麻薬
ゴポ
フッ
本当に恐ろしいのは――
ンンフッ
ンンフッ
ブッ
ゴポ
ゴポ
絶頂を迎えた時に分泌される濃度の高い液体だ

おっ
ブル
おっ
ブル
これの匂いを嗅いだだけで瞬時に絶頂のリミットが外れてしまう
イキ続け際限なく快感が高まっていく
ビクビクビク

ブッ
フゴッ
ビクビクビク
おぶぶ
ブッ
ブッ
おぶぶ
フゴッ
ブッ
おぶ
ブッ
ぶほお
ぶほっ
ブッ
ほぶ

ぎぎぎ
ぎぎ
ぐぼぼ
彼らは賢い
こんな体に堕落した牝は
つがいにしておけば
逃げ出す事など無い
ただ目の前の媚肉を
貪り合うだけの
快楽の僕だ
快感に脳が
耐えられなくなるまで

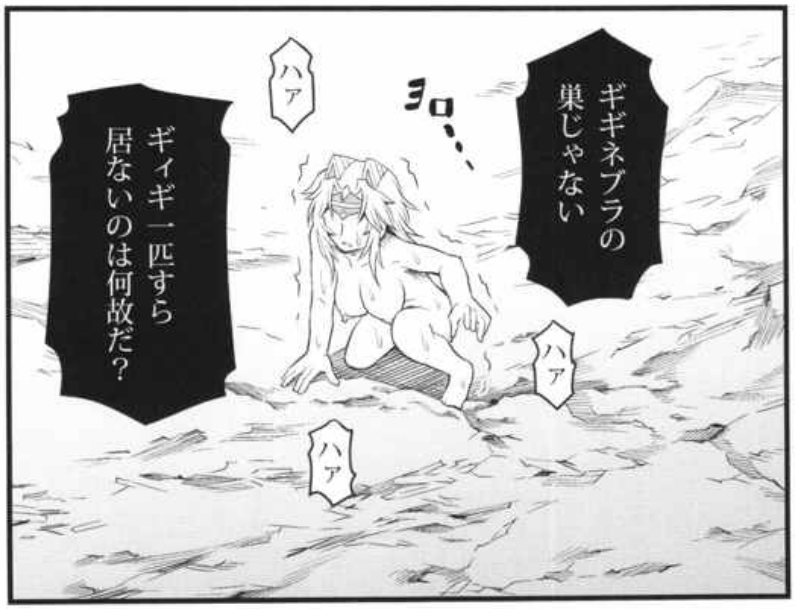
ドゴォォォォ
アンタ結構重いな
な!? 失敬だぞ、君!!
イチャイチャしてないで足元気をつけなさいよ アンタ達重いんだから崩れるわよ
重くない！ 私は重くない!!
そう言えば太ったかもな～
ピキッ
落ちても助けないわよ

お？
ん？
ん？
ボコ
何で私なのよー!!
絶対に許さんぞ貴様らー!!
アタシらのせいかよ
悪役の最期みたいになってるね
取りあえず助けに行くかー
生きてれば
そうだね
大丈夫でしょあの娘は
問題はどうやって下におりるかだな
ヒュオオオ
飛ばねーよ
飛ぶなら私は置いて行ってくれ

ん……

ピクッ

……ここは？



出口は……あそこか
しかし何故？どうして捕らえた獲物を自由にする？
罠？……いやそんな事をする理由など無い
ピク
ドゴゴ
何だ!?
シュウウウ

……コイツは？

ギギネブラ？
……にしては小さい
成長途中の個体か？

ボ
ボ

毒液は
使えるのか

またあの毒で
狂わされるのか？
私は……

ハア
ハア

ハッ

プル

トロ……

ハッ

プル

プル

ハア
ハア
ハア
フル
フル
フル
バシッ
ドッ
ドッ

ズザザザ
なぜ？私はどうして
こんな事をしている？
散々女の悦びを刻み込まれ
毒液を見ただけで
蹂躙される期待に股を
濡らす快楽に堕とされた
この私が
ガリ
カリラ

ドドド
ドン
ドン
ゴッ
考えるより速く
体が反応する
私の女は官能に
堕落していても
この肉体はハンターの
それなんだ

ギリ
長年鍛え上げた
戦闘方法を筋肉が
記憶している
襲い来る敵を前に
すればハンターの
肉体は無意識に
戦いを始める
ブン

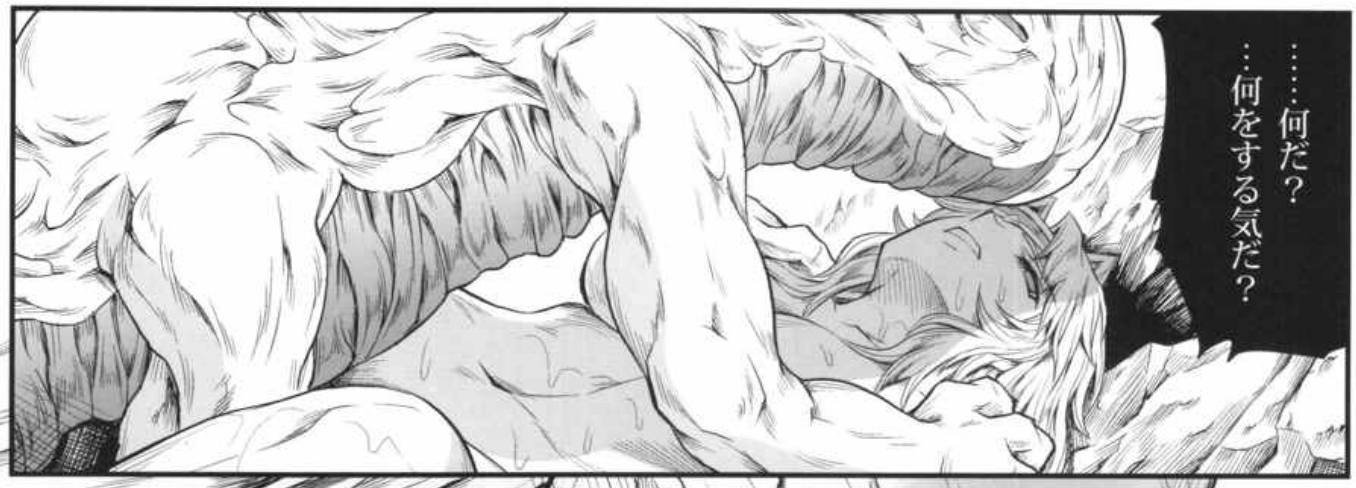
浅い！体力が
落ちきっている！
殺せるほどの
打ち込みじゃ無い！
ゴビュ
ガボボ

おっ……
げえ……
トス
ドヨ
ピュル
ピュル
ビクッ
ビクッ
ビクッ

ゴッ
ヒュッ
ウ…
グイ
ボルッ

ゴオオオオ
……あ
ぐ……あ……
意識が……
霞がかって……
だめだ……
体が…動か…
ドズ

ガシ


……何だ？
…何をする気だ？

んぐっ
ビクビクビク
ジュボ
むぐぅっ

バタ
バタ
グチュ
ムギュ
ムギュ
グチュ
ブルル
ブルル
ジュボボ
ジュボボ
ドサ
ピク
ピク
ジョロロロ

ニチャ

ホカ

あぁ…また私は

ホカ

ホカ

牝(おんな)に戻されてしまう

ホカ

ホカ

ホカ

ホカ

にゅるる

ピト
ブチュ
ビクビク
ビクビク
ほヒぃ
おっ
おっ
何だ……コレ？
…性器？…そんな…
…そんなはずは……
ブルブルブル

ブッ
ブッ
ユサ
ユサ
あぉ
あぉ
グチュ
グチュ
ギギネブラは雌雄同体
自家受精を行って種を
残す生物だ他個体への
生殖行為など決して
しない
ましてや他種族である
人間の女相手など
考えられない
それなのに
あっ
あっ
それなのに
なぜ
おぉ
ぅぉ
ぅぉ
ブリッ
ブリッ
私は
犯されている!?

凄い♡
おほっ♡
おほっ♡
ドズ
ドズ
凄いいい♡
ブッ
ブッ
ブッ
ニュコ
ニュコ
おほっ♡
ブッ
パン
パン
あン♡
ブッ
おっ
おっ
おっ
あン♡

ドスドス
ブッ
ブッ
ブッ
あヒ♡
あヒ♡
いい♡
あヒ♡
いいのぉ♡
ヘッ
ヘッ
ヘッ
ほヒ♡
ほヒ♡
ブリ
ブリ
ほヒ♡
化け物のちんちん
気持ちいいのぉ
ニュブ
ニュブ

イクっ♡
ハヘッ
イクっ♡
ハヘッ
ハヘッ
ヘッ
ヘッ
ジュッ ジュッ
ちんちん膨らんでる♡
射精して♡ 射精して♡
ヘッ
ブチュ
ブチュ
ブス
ブス
あっ♡
全部私の膣に
吐き出してえぇぇ♡
ブッ ブッ
プッ
あっ♡
ビクン
おっ♡

ビュルルルルル
ビクビクビクビク
ビュルルルルル
ビクビクビクビク
ビュルルルルル
ビクビクビクビク

ブリリリリ
ブリリリリ
何これぇ
射精が終わらないぃぃ
イグのぉ
止まらないぃぃ♡
カクカクカクカクカクカクカクカク
ズクドクドクドク
入んないぃぃ♡
これ以上入んないぃぃぃぃ♡
ブシュッ
ブシュッ
ダメぇ♡

ダメぇ♡
ダメらぁ♡
ブッ
ズコ
ズコ
ブブブ
ダメにらって♡
逝ぎっ♡♡♡♡
ブシュッ
ズザ
ニュポン

ホカ
ホカ
ホカ
ホカ
ブボッ
ブボボッ
ビチ
ビチ

分かった事がある
この場所は成長途中のギギネブラ達の訓練所なのだ
獲物の狩り方を覚えるための場所

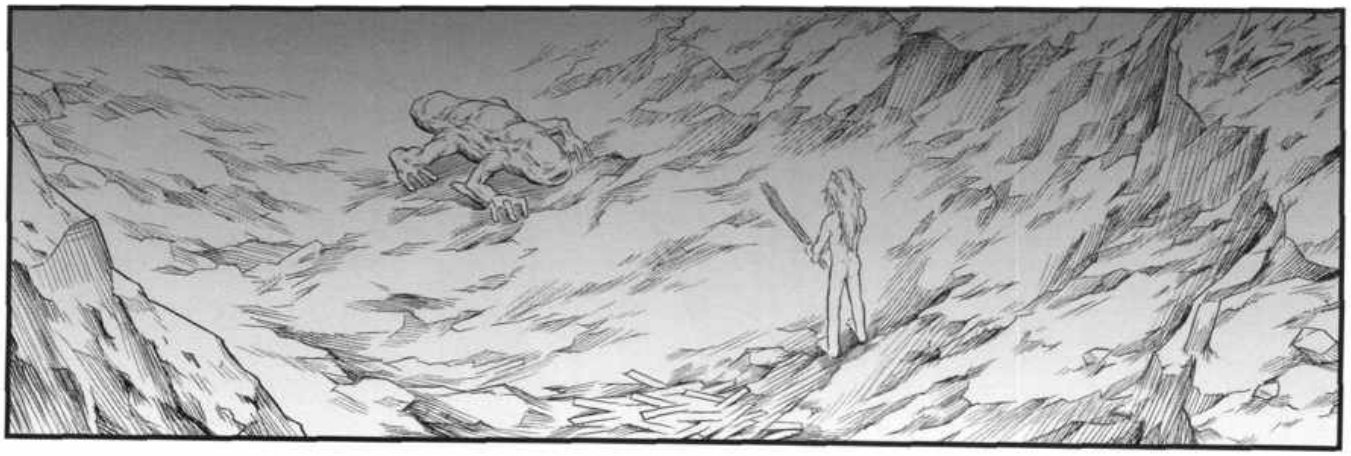
そしてもう一つ……

生殖行動を訓練するための場所だ
より良い吐精を行えるように雄性器の使い方を学ぶ

これは推測だが
ギギネブラの体内にある雌性器が人間のそれに近いのだろう
だから人間の女を使って練習をする
つまり私の膣は

『本番を上手く行うための練習用の穴』

というわけだ



そして私は
また戦わされる

ツー

敗北して
犯されるために……

To be continued

ソロハンターの生態 4

The fourth part

発行　YokohamaJunky
発行者　魔狩十織
発行日　2014.12.30
印刷　ねこのしっぽ
web　http://yokohamajunky.com/
email　mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及びギギネブラの設定とか一切関係ありません
尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です